

健康医療福祉都市構想 について

課題認識

◆脳卒中・高齢者医療の課題

- ・回復期リハビリテーションを卒業後に、住む街に社会参加できる環境が十分でない
ーリハビリをしないとどうなるか？

局所&全身廃用、低重力（臥位）、感覚・運動刺激欠乏により…



- ・現実的には、自宅、施設、病院以外の外出場所はない
- ・そもそも現在、福祉都市の名前は多いが、成功した事例はない

- 病院だけに頼る医療から、ハンディキャップと共存した街で人間回復する社会の創出へ
- 医療と街づくり、福祉・健康と街づくりの真の融合により、人を元気にする新しい社会の姿が生まれ、さらに新しい産業創生につながる

健康医療福祉都市構想とは…？

高齢者、障害者を含めた全ての市民が「まちで生活・社会参加」できる環境
市街地中心部からの健康と良質な生活のための都市

健康医療福祉都市の5項目

- ①回復期リハビリテーション病院を中心としたまちと医療との連携
- ②健康、医療、福祉サービスの情報提供
- ③市街地中心部に公園的歩道空間（ヘルシーロード）の配置
- ④ヘルシーロードに沿って医療関連産業街の整備（高齢者や障害者へ情報、サービス、良質な生活用品の提供）
- ⑤従来型ビジネスによる市街地中心部の相乗的経済活性化



市街地中心部のヘルシーロード整備イメージ

健康医療福祉都市構想 について

快適なバリアフリー歩行空間の環境整備: (ヘルシーロード整備)



ヘルシーロードのイメージ



ヘルシーロードとは

- 従来の歩道の改修による高齢者、障害者・児、にも優しい連続性のある歩道（予防にもつながる、歩きたくなる健康増進のための歩道）
- 季節、文化、芸術、緑を感じる青空の見える気持ちいい地域色のある歩行空間
- 生きるエネルギーや生産活動が溢れた歩行空間
- バリアフリーの交通網が整備された道路
- 従来型ショッピング街との相乗的な経済活性化

ヘルシーロードに沿う新しいビジネス



健康・医療・福祉の良質な情報、個々に必要な情報、生活サービス、質の高い生活必需品の発信等が必須

ヘルシーロードからの発信

1. 地域住民の交流と支え合い体制や定期的イベント体制の構築
→地域住民が主役の街づくり、みんなが参加できる街づくり/自立した生活ができるコミュニティ創出
2. 健康・医療・福祉に関する情報、支援サービス体制の構築
→情報アクセス・サービス利用のバリアフリー化
(地域の医療・福祉資源のリストとマップ、情報発信基地となる医療福祉情報相談センター等)
3. 医療関連産業街の創設と既存商店街との連携による経済活性化
→ヘルシーロード沿いに福祉・介護・子育て・患者・シルバー支援などに関連したゆるいビジネス創出
→定年退職者、主婦、学生、高齢者などに生き甲斐の機会を創ると同時に、働き手として活用

